

## 主な出展リスト

- ◆ プログラム  
PRBROF-037 バレエ・リュス『眠り姫』プログラム / アルハンブラ劇場 / イギリス / 1921年  
PR-302 ソニア・アロワ『眠れる森の美女』 / 日本劇場 / 日本 / 1952年
- ◆ 写真  
PH-D-265ws ヴェラ・トレフィーロワ(署名入り) / イギリス / 1921年  
PH-CC-013 ビョートル・チャイコフスキー / フランス / 撮影年不詳  
PH-CC-039ws マリウス・プティパ(署名入り) / ロシア / 撮影年不詳(署名は1896年12月20日)  
PH-C-02-65・66 アメリカン・バレエ・シアター / アマンダ・マッゲロー / アメリカ / 1980-1990年代  
PH-C-17-27・29 マリンスキー劇場初演時 / カルロッタ・ブリアンツァ他 / ロシア / 1890年  
PH-C-25-19・20 ロイヤル・バレエ / アンソニー・ダウエル他 / イギリス / 1990年代
- ◆ ポストカード  
PC-B-058 スタニスラス・イジコフスキー『青い鳥』 / ロシア / 1920年代  
PC-B-091-01 セルジュ・リファール『青い鳥』 / ロシア / 1930年代  
PC-B-124-06 オリガ・ブレオブラジェンスカヤ『白猫』 / ロシア / 発行年不詳
- ◆ 書籍  
BK-198 『眠れる森の美女』M・コンスタンチノフ著 / ロシア / 1990年  
BK-208-pie 『眠れる森の美女』シリル・ボームント著 / イギリス / 1946年  
BK-209-pie 『眠り姫 第1巻』シリル・ボームント著 / イギリス / 1921年  
BK-210-pie 『眠り姫 第2巻』シリル・ボームント著 / イギリス / 1921年
- ◆ ポスター  
PO-25 マリンスキー劇場『眠れる森の美女』ポスター / マリンスキー劇場 / 1990年代  
PO-26ws バレエ・リュス『眠り姫』ポスター(署名入り) / アルハンブラ劇場 / イギリス / 1921年
- ◆ スクラップブック  
SB-04 『眠れる森の美女』プロローグ / 新聞『ザ・スフィア』より / スクラップブック / 年代不詳
- ◆ ドキュメント  
Doc-BR-05 バレエ・リュス『眠り姫』プログラム原稿 / アルハンブラ劇場 / イギリス / 1921年  
Doc-NP-04 アメリカン・バレエ・シアター『眠れる森の美女』評 / 薄井憲二著 / 朝日新聞 / 日本 / 1992年11月5日
- ◆ アンティークプリント  
AP-086 『優雅なインドの国々』より『中国の祭り』 / ジャン＝ジョルジュ・ノヴェール振付 / 1778-1787年

## 関連企画：連載中

Chacott Web Magazine「DANCE CUBE」連載中  
「薄井憲二バレエ・コレクションの逸品を訪ねて」(text: 森 瑠依子)



## Kenji Usui Ballet Collection

薄井憲二 バレエ・コレクション  
2018企画展

### 『眠れる森の美女』

～ Chacott Web Magazine DANCE CUBE 連載  
「薄井憲二バレエ・コレクションの逸品を訪ねて」  
関連企画～

2018/5/11(Fri.)～2018/6/24(Sun.)

## Kenji Usui Ballet Collection

### The Sleeping Beauty

2018/5/11(Fri.)～2018/6/24(Sun.)

#### ◎ 構成協力

森 瑠依子(もり・るいこ) / Chacott Web Magazine DANCE CUBE 連載  
Ruiko Mori (Writer of Chacott Web Magazine DANCE CUBE)

#### ◎ 企画・監修

関 典子(せき・のりこ) / 薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター  
Noriko Seki (Curator of Kenji Usui Ballet Collection)  
舞踊家・振付家・舞踊研究者。幼少よりクラシックバレエを学び、18歳でコンテンポラリーダンスに転向。お茶の水女子大学大学院博士後期課程を経て、現在、神戸大学大学院人間発達環境学研究所准教授。日本ダンス評論賞・兵庫県芸術奨励賞・神戸市文化奨励賞等受賞。

岡元ひかる(おかもと・ひかる) / 薄井憲二バレエ・コレクション・アシスタントキュレーター  
Hikaru Okamoto (Assistant Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

山本法子(やまもと・のりこ) / 薄井憲二バレエ・コレクション・アシスタントキュレーター  
Noriko Yamamoto (Assistant Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション 担当

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 tel: 0798-68-0223 (代表) fax: 0798-68-0212

## ～『眠れる森の美女』の誕生～



白猫を演じるオリガ・フレオラジェンスカヤ (1871-1962)。マリンスキー劇場でマリ・バレリーナを務めた後、国内外で名教師として活躍した。

シャルル・ペローのおとぎ話を原作にした、プロローグと3幕のバレエ『眠れる森の美女』は、1890年1月にロシアのサンクトペテルブルグ帝室マリンスキー劇場で誕生した。振付はペローと同じフランス人のマリウス・プティバ、作曲はピョートル・チャイコフスキーで、原案と衣装のデザインはロシアの帝室劇場総裁、イワン・フセヴォロジスキーによる。豪華絢爛なレイ14世時代のフランス宮廷風のセットと衣装、華やかで重厚な音楽、優美で洗練された振付で、このバレエは大成功を収め、感銘を受けた観客の中には芸術通の青年セルゲイ・ディアギレフもいた。



1890年の舞台より。左がリラの精役のマリー・プティバ(1836-1882)、中央がプリアンツァ。



オーロラ姫役を初演したイタリアの名花カルロッタ・プリアンツァ(1867-1935頃)。1921年のバレエ・リュス版「眠り姫」では悪の精カラボスを演じている。

## ～ディアギレフの『眠り姫』～

1909年にパリでバレエ・リュス(ロシア・バレエ団)を旗揚げし、西ヨーロッパでロシア・バレエ・ブームを引き起こしたディアギレフは、ロンドンのアルハンブラ劇場で1921年11月、ロシア・バレエの傑作『眠れる森の美女』を『眠り姫』として上演する。オーロラ姫はマリンスキー劇場出身の4人のバレリーナが演じ、カラボス役で1890年の主役のプリアンツァが出演した。振付はマリンスキー劇場で舞台監督を務めていたニコライ・セルゲエフがロシアから持ち出したプティバ版の舞踊譜を元に行われ、一部の踊りが新たに創られた。

この舞台はマリンスキー劇場の伝統を伝える豪華な内容だったが、斬新な1幕作品で人気を集めていたバレエ・リュスの作風とは大きく異なり、期待されていた成功を収めることができなかった。上演期間は短縮され、ディアギレフは莫大な負債を抱えることになる。



バレエ・リュス版『眠り姫』でオーロラ姫を演じたひとり、ヴェラ・トレフィロワ(1875-1943)。マリンスキー劇場で踊った後、パリでバレエ教師として人気を集めた。



「青い鳥」を踊ったスタニスラス・イジコフスキー(1894-1977)。バレエ・リュスのスター、ワーツラフ・ニジンスキーと同じポーランド系の小柄なテクニシャンとして活躍した。当コレクションには、イジコフスキーが着用した別のデザインの「青い鳥」衣装も所蔵されている。



新聞「サスフィア」より。左上から時計回りに、中国の磁器人形の踊り、王と王妃、リラの精(リディア・ロボワ)、赤ずきん(リディア・ソコロワ)と狼(ニコライチク)、豪華な衣装の王、オーロラ姫(リュボフィ・エゴロワ)とデジレ王子(ピエル・ウラジミロフ)。



『眠り姫』の公式プログラム。表紙は美術を担当したレオン・バクストによる衣装デザインのひとつ。

## ～イギリスの『眠れる森の美女』～

後期バレエ・リュスに参加していたニネット・ド・ヴァロワ(1898-2001)は、1920年代後半にロンドンにバレエ学校を開校し、現在の英国ロイヤル・バレエの基盤を築いた。1939年に彼女が率いるヴィク・ウェルズ・バレエ(現ロイヤル・バレエ)はセルゲエフを雇い、バレエ・リュス版よりもプティバの原典に近づけた『眠り姫』を上演した。マーゴ・フォンテインとロバート・ヘルプマンが主演したこの作品は大成功を収め、以後『眠れる森の美女』はロイヤル・バレエの十八番として知られるようになる。そして1946年に制作されたド・ヴァロワ、アシュトンらの振付を加えた改訂版はさらなる完成度で、高い評価を得た。



主役オーロラ姫を演じるマーゴ・フォンテイン(1919-1991)。

1994年に自ら振付けた版で、おどろおどろしくカラボスを演じるアンソニー・ダウエル(1943-)と、リラの精のロザリンド・エア。ダウエルは20世紀を代表するダンス・ル・ヌーヴルのひとりとしてロイヤル・バレエで活躍し、1986年から2001年まで同団の芸術監督を務めた。



©Leslie E. Spatt

## ～アメリカの『眠れる森の美女』～

アメリカではバレエ・リュスよりも早い1916年にアンナ・パヴロワが『眠れる森の美女』の1幕版をニューヨークで上演していたが、全幕版の初演はその21年後、1937年のフィラデルフィア・バレエ版である。そして1949年には英国のサドラーズ・ウェルズ・バレエが訪米してセルゲエフ新改訂版を上演し、アメリカでも観客を熱狂させた。アメリカを代表するバレエ団のアメリカン・バレエ・シアター(ABT)の全幕版上演は、キーロフ・バレエ(現マリニスキー・バレエ)から亡命したナターリヤ・マカロワとミハイル・バリシニコフという、この上ないスターを主演に迎えた1976年のメアリー・スキージング版まで待つことになる。



1987年に初演され、長く人気を集めたケネス・マクミラン版のプロローグの妖精たち。

©Martha Swope

## ～日本の『眠れる森の美女』～

日本では第二次世界大戦終戦の翌年1946年に東京バレエ団が『白鳥の湖』全幕を初演したのに続き、1952年、小牧バレエ団が『眠れる森の美女』全幕を初演。オーロラ姫を演じたロンドン・フェスティヴァル・バレエのスター、ソニア・アロワが小牧正英とともに演出・振付に携わり、見事な舞台を創り上げた。なお、翌年に貝谷バレエ団が『くるみ割り人形』全幕を初演したことで、チャイコフスキー作曲の3大バレエの日本初演が実現。それから65年が過ぎた現在、多くの日本のバレエ団が3大バレエをレパートリーとし、観客を魅了している。



1952年11月に東京20周年記念公演として東京、日本劇場(白劇)で行われた小牧バレエ団の『眠れる森の美女』プログラム。ハンガリー出身で、パリのフレオラジェンスカヤに学んだ当時25歳のソニア・アロワ(1927-2001)の横顔が初々しい。